

ごあいさつ

教育開発支援センターは、昨年の9月に設立され、今年の4月から本格的な活動を始めました。その使命は、よりよい教育を実現したい教員の思いと、よりよく学びたい学生の思いを合致させて、京都橘大学を教育で評価される大学にすることにあります。具体的な活動領域としては、①教育改善・学習支援を促進するための調査分析、②個人レベル・学部学科など組織レベルの教育改善の支援、③ラーニングコモンズを中心とした学習支援・学習環境の整備を考えています。

センターでは2022年までの活動計画を立て、今年度は、広く学内においてセンターについて知ってもらうことを目標にしています。

教育開発支援センターの新設にあたり、授業実践の現状を把握し、支援のありかたを検討する目的で授業

教育開発支援センター長 北林 利治
実践に関するアンケートを実施しました。先生方の日々の授業での悩みとともに、よりよい教育にむけての熱い思いを感じ取りました。同時に、センターへの要望や依頼もお寄せいただきました。

すでに、学部・学科、全学FD委員会などと連携しながら、教育改善の分野で活動を始めています。いくつかの学科とは、協同して、初年次教育科目の見直しや、ラーニングアシスタントの制度について、改善の計画を立てるお手伝いをいたしました。個人レベルでも学科レベルでも、なにかご要望があれば、お気軽に声をかけてください。少しでも改善につながるようにいっしょに考えていきたいと思っております。



想いをかたちに

教育開発支援センター専任講師 西野 毅朗

今年4月より教育開発支援センター専任講師として本学に着任いたしました西野です。教員経験の少ない私に、このような大役をいただき大変ありがたく、また身の引きしめる思いがいたします。

私は教育社会学の中でも高等教育論を専門としています。よりよい学びを実現するためには何をどのようにしていけば良いのかという問題意識を持ち、この領域に進みました。修士課程では医療系大学におけるアクティブラーニングの基礎的研究を、博士課程では人文社会科学領域におけるゼミナール教育の研究を進めてきました。

一方で、2009年に設立された専門家団体「日本高等教育開発協会」にも参加させていただき、いかにして学内の教育をより良いものにしていくのかについて様々な知見を学ばせていただいております。今後も自身の研究や外部で得た知見を学内に積極的に還元して参ります。

半年間、様々な先生とお話しさせていただく中で特に強く思うようになったことは、「先生方の教育に対する想いをかたちにしていきたい」ということです。「～を何とかしたいと思っている」「～をもっとうまくする方法はないか」「新し

く～を始めたいと思っているが、どうすればいいか」等教育に対する問題意識をお持ちの先生がたくさんいらっしゃると感じています。そういった思いをしっかりと聴かせていただき、原案や改善策などを一緒に考えさせていただく機会を頂戴できれば幸いです。是非とも、お気軽にお声掛けください。

「教育で評価される大学」を先生方と共に創るべく精一杯努めさせていただきます。未熟者ではございますが、今後ともよろしく願います。



<教員アンケート結果報告> ※詳細は2017年1月18日「全学FD学習会」冒頭にて報告させていただく予定です。

今年7～8月にかけて実施いたしました「教員アンケート」の結果をご報告いたします。本調査は以下3点について明らかにする目的で実施いたしました。設問は全て自由記述方式とし、有効回答数は29、回答は意味文節で分解し再分類することによって分析しました。ご回答いただいた先生方、誠にありがとうございました。

(1) 授業実践における問題意識

大きく2つの問題意識が挙がりました。1つは「基本的な学習姿勢・学習スキルの低さ」です。ノートをとる力、書く、読む力、情報検索能力、議論の力などの低さへの言及が目立ちました。もう1つは「積極的学修姿勢の促進」です。授業への関心や授業外での学習意欲をいかに高めるかという問題意識です。

(2) 具体的な工夫

具体的な工夫は多岐にわたりました。大きくは「ガイダンス」「教室環境」「教材」「内容」「教授法」「評価・フィードバック」の6点にカテゴリズできました。具体的な方法は今後共有させていただきます。

(3) センターへの要望

授業改善に資するものはもちろん、施設関係への要望もいただきました。一番は「教育開発支援センターが何をするとところか」その役割が理解されていないことがわかりました。

※これら結果については、今後のセンター活動の参考にさせていただくと同時に、全学で共有してまいります。

【寄稿】初年次教育学会に参加して

現代ビジネス学部 経営学科

助教 片岡 裕介

今年度より委員を務める教養教育推進室の関連で、今年9月に開催された「初年次教育学会」に参加してきました。この場をお借りして簡略ながらそのご報告をさせていただきます。今年度の大会プログラムを見ると、「授業デザイン」「中途退学防止」「高大接続」「キャリア教育」「初年次教育の評価」などが主なテーマとされており、なかでも私が特に興味をもった2つのプログラムについてご紹介したいと思います。

まず1つ目は、「ノートの取り方」の指導法に関するワークショップです。ここでは、「なぜノートをとる必要があるのか」を学生に理解してもらう際に、大学では教科書に沿った授業、板書中心の授業など様々な授業スタイルがあり、それによってノートの取り方が異なることを伝えることが重要であるとのことでした。最近ではパワーポイントを用いた講義形式の授業が多く、そのため進行が早くなることで、学生にとって処理すべき情報量が増えている状況への対応も必要ではないかと思いました。

2つ目は、「中途退学防止」のセッションであった「フレッシュアップセミナー」についての事例報告です。地方都市の小規模大学で実施されている、学生の定着率を上げることを目的としたものでした。出席率の低下がみられる一年次後期に、学生の動機づけを継続させる工夫が必要であるとのことでした。内容について興味深かっただけでなく、少数の教員で対応せざるを得ないことで生じる負担の喩えとして、昔の背負子姿で重い足取りの行商人らしき人々の写真が最後に映されたのが印象的でした。初年次教育コンテンツが全学的に整備されている他の大規模大学の報告があったこともあり、教育活動を組織的に支援する体制の整備の重要性を認識しました。

最後に、今後、様々な場面に活動が展開されるであろう本学の教育開発支援センターの存在を、一教員として大変心強く感じます。



<学内イベント（教育開発支援センター主催）のご案内>

2017年1月25日（水）12:20～13:30に「第1回教育実践共有サロン」を開催いたします。

詳細は後日ご案内させていただきます。奮ってご参加ください！